



# ひまわり



## 小児のボツリヌス毒素治療



茨城県立医療大学付属病院  
病院長 岩崎 信明

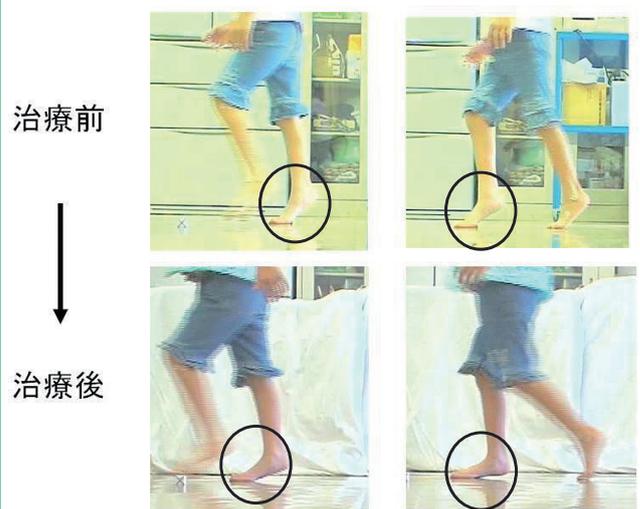
痙縮といって筋肉が固くこわばってしまうことが起こります。原因は脳の病気で、成人では脳卒中、小児では脳性麻痺などの患者さんに見られます。治療は難しいのですが、最近、ボツリヌス毒素を用いた治療が行われるようになってきました。「ボツリヌス毒素」という聞きなれない単語ですが、ボツリヌス菌という細菌が出す毒素のことで、この毒は筋肉を動かさなくする作用があります。人がこの細菌に感染すると、菌から出た毒が血液に乗って身体の中を流れ、呼吸をするための筋肉にたどり着くと、筋肉が動かなくて呼吸ができなくなって死に至る、大変危険な細菌です。でも、この細菌が出す毒素を別に取り出して、それを、ほんの少しだけ筋肉に注射をすると、注射された筋肉だけ力が出なくなり、筋肉の痙縮が取れます。これがボツリヌス毒素治療です。

日本では1997年に目元がびくびくする眼瞼痙攣に、2000年に顔面痙攣に、2001年に首のこわばる痙性斜頸に保険診療が認めら

れました。そして、2009年に小児脳性麻痺患者の足に、2010年に成人・小児を問わず腕や足に使えるようになりました。当院でも2009年から小児に対して治療を始めており、これまで、50名を超える子ども達に治療をしてきました。27Gという細い注射針を用いたり、小児科では皮膚に痛みを減らすための貼付用局所麻酔剤のシールを事前に注射する部分に貼るなどして、少しでも痛みを少なくしようと工夫しています。

下肢では、ふくらはぎや太ももの後ろ、股の内側にある筋肉に注射をします。ふくらはぎの筋肉がこわばってしまうと、歩く時に踵が床に着けなくなり、つま先歩きになります。この注射をふくらはぎにすると、踵を床に着けて歩くことができるようになります(図)。

### ボツリヌス毒素治療による効果



上肢では、力こぶの筋肉、肘の少し前方にある手首や指を動かす手の部分の筋肉などが対象になります。手がこわばって、なかなか手の平を開くことができない場合には、前腕の筋肉に注射をすると、手の平を容易に開くことができるようになります。

また、非常に重症の脳性麻痺の方では、首の周りの筋肉が痙性でこわばってしまうことがあります。首の周囲から肩に掛けての筋肉に注射することもあります。呼吸が楽にできるようになる効果がみられることがあります。

ボツリヌス毒素治療は、他にもいろいろ効

果があり、頬に打つと唾液が減って、よだれが出にくくなりますし、美容の分野では顔のしわ取りに使われています。では、痛みの強い肩こりはどうかな、と考える方がいらっしゃるかもしれませんが、効くかもしれませんが、健康保険が使えず高価な薬のため、残念ながら手軽に使うわけにはいきません。

最後に、当院小児科ではこのような新しい治療を積極的に導入し、今後とも皆様のお役に立てるようにと考えておりますので何卒宜しくお願いします。

## プルタブをあつめて車いすを!

ボランティア推進委員会では  
開院間もない頃からプルタブを集めています。



皆さん、リングプル再生ネットワーク（通称プルネット）をご存知でしょうか？  
プルネットとは、皆様の善意により収集されたリングプル（プルタブ）を、協賛リサイクル業社にて換金し、協賛業者から車椅子等を購入して、リングプル寄贈者に提供する一連のシステムのことを指します。

当院では、このプルネットの存在を知ってから、ボランティアの一環として、今日までプルタブ集めに取り組んできました。結果現在では、皆様のご協力もあり、総計585キロものプルタブが収集されました。750キロで車いす1台と交換となるので、残り165キロのプルタブを集めると、当院に新しい車椅子が届くことになります。

ボランティア推進委員会では、車椅子を目指してまだまだプルタブを集めております。少しでも興味を持っていただき、ご協力いただけましたら幸いです。



# 接遇 「思いやりの心」をもって



サービス向上委員会

委員長 旭 佐記子

病院は患者さんが治療やケアを受ける場でもあることから職員は患者さんの立場を思いやって、温かく、しかも誠意をもって対応することが大切であると考えています。

接遇という言葉は、誰もが一度は聞いたことがあると思います。その言葉の意味ですが接遇の「遇」という字には「もてなす」という意味があります。いわゆる「おもてなしの心」「思いやりの心」をもって患者さんに接するということになります。

当院では思いやりの心をもって患者さんに接することができるよう、入職時職員に身だしなみや接遇マナーの基本が書かれている「職員ハンドブック」を配布すると同時に、研修を実施しています。

また毎年、全職員を対象に患者さんとの信頼関係を築く基本となる「接遇研修」を開催しています。研修は県内の接遇トレーナーによる「すぐ活用できるマナー」を中心に実施し、職員の接遇意識の向上に努めています。」



接遇研修

当院では患者さん満足度向上のためにサービス向上委員会を設置しています。委員はすべての部門から選ばれ、(1) 職員の接遇向上に関する事 (2) 療養環境の改善に関する事 (3) 患者満足度調査に関する事などの活動をしています。

今後も患者さんに満足していただける接遇を目指していきたいと思っています。



サービス向上委員



## 茨城県立医療大学付属病院の理念

患者さん本位の、  
安全で良質なリハビリテーションを中心とした医療を行い、  
患者さんが住み慣れた地域で、  
安心して、その人らしく生活できるように支援します。

### ●基本方針●

- 1 患者さんの尊厳を第一に考え、安全で信頼性の高い医療を行います。
- 2 より良いチーム医療を行い、質の高い医療を提供します。
- 3 先進的なリハビリテーション医療の開発と実践を通して社会に貢献します。
- 4 県内リハビリテーション医療のレベル向上に努めます。
- 5 医療人としての誇りと、豊かな人間性を持った医療専門職の育成に努めます。
- 6 健全な経営に努めます。

## 医療機関のみなさまへ

### ◆◆◆ 画像診断サービスのご案内 ◆◆◆

当院では、画像診断サービスを地域の皆様に提供しています。リハビリテーション関連の疾患に限らず、画像診断に関することは広くご相談に応じます。

※他の医療機関の医師からの紹介が原則です。

#### ～検査内容～

- ・一般X線撮影
- ・CT検査
- ・MRI検査
- ・X線骨密度測定
- ・核医学検査
- ・超音波検査

●本サービスを希望される場合は、医療機関からの電話による予約が必要となります。

**TEL：029-888-9213**

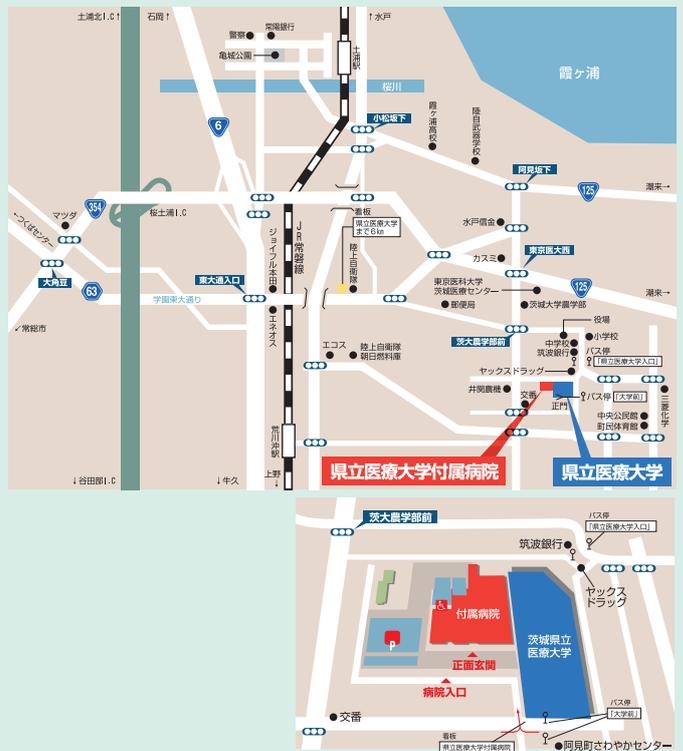
**FAX：029-888-9274**

詳しくはホームページをご覧ください。

### ～平成29年度診療実績～

- 延外来患者数 24,257人  
(1日平均 99.41人)
- 延入院患者数 37,281人
- 新入院患者数 547人
- 退院患者数 543人
- 平均在院日数 67.41日

## 当院へのアクセス



### ●鉄道・バスをご利用の場合

J R常磐線 土浦駅または荒川沖駅で下車

□土浦駅(西口)からバスで約25分

「阿見中央公民館」で、  
「県立医療大学入口」下車、徒歩約8分

□荒川沖駅(東口)からバスで約25分

「県立医療大学行」で終点下車、徒歩約3分

### ●お車をご利用の場合

□常磐自動車道「桜土浦IC」より約25分



# 茨城県立医療大学付属病院

Ibaraki Prefectural University of Health Sciences Hospital

〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町阿見4733

TEL.029-888-9200(代) ホームページ <http://www.hosp.ipu.ac.jp/>

